

# とめNNだより

令和4年12月発行

第30号



「とめNNだより」は、農業農村整備部(通称NN部)の広報広聴活動の一環として、登米管内の農業農村整備事業に関連する活動を広くお知らせする目的で、年4回発行を予定しております。掲載内容についてお問い合わせ等ありましたら、管理調整班までご連絡ください。

【東部地方振興事務所登米地域事務所農業農村整備部広報広聴委員会】

## ■「令和4年7月13日から16日発生豪雨」による伊豆沼周辺地区の被害状況

7月13日から16日にかけて発生した豪雨により、登米管内では主に伊豆沼に隣接する「飯島地区」「伊豆沼2工区地区」において、約10日間に及ぶ湛水被害が起きました。被害範囲としては、飯島地区の一部(伊豆沼3工区)約99haと伊豆沼2工区地区の全域約104haが湛水しました。両地区の内水は共に伊豆沼へ排水されることとなっていますが、今回は、伊豆沼の水位が上昇したことから、本来の排水が困難となり湛水期間が長期間に及びました。幸いなことに両地区とも排水機場の浸水被害が無かったため関係土地改良区では、応急措置として既設ポンプの稼働に加え数台の仮設ポンプを設置し排水対応を迅速に行い、早期の湛水解消に努めました。

この両地区については、国の「激甚災害」に指定されたことに伴い「湛水排除事業」の補助が適用され、排水対応に係る経費の負担軽減が図られました。



▲飯島地区(伊豆沼3工区)上空 (R4.7.21撮影)



▲伊豆沼2工区地区上空 (R4.7.21撮影)

なお、湛水被害後は、好天が続いたことから水稻生育の遅れが解消されましたが、収量については、例年と比べ減収見込みの箇所が部分的に見受けられました。今後、関係機関と対応を検討していくこととしています。



▲飯島地区 生育状況 (R4.8撮影)



▲伊豆沼2工区地区 生育状況 (R4.8撮影)

## ■「令和6年度新規採択予定地区の古宿地区」において土壌調査を行いました

10月27日、28日に令和6年度新規採択予定地区の古宿地区における土壌調査を(株)丹野測量設計をはじめ、(有)スズコー、迫川沿岸土地改良区、東部地方振興事務所農業農村整備部、登米地域事務所農業農村整備部の各担当職員で行いました。

今回の調査は、古宿地区の基本設計を行うにあたり、地区の土壌の基本的性質を把握するために実施し、併せて、当部の若手職員の実務研修の場としてスキルアップへの取組も行いました。1日目は地区内の各地点からサンプルとなる土壌を採取し、土壌の分類や有効土層（作物の根が自ら入り込むことのできる層）の判定、土壌図（各種土壌の分布状況を示した地図）の作成を行い、2日目は土壌に1m四方の穴を掘り、土壌断面の調査・判定、土壌断面柱状図の作成を行いました。

当部では、引き続き古宿地区の事業採択に向け、東部地方振興事務所と協力し業務を進めていきます。



▲土壌判定の様子



▲土壌調査の様子

## ■「米山・中津山・吉田公民館合同歴史講演会」が開催されました

11月14日に、登米市中津山公民館でNPO法人あぐりねっと21理事長 宮城大学名誉教授である加藤徹先生より、「登米耕土の生立ちとその特徴」について、特別講演がありました。

### ○講演会について

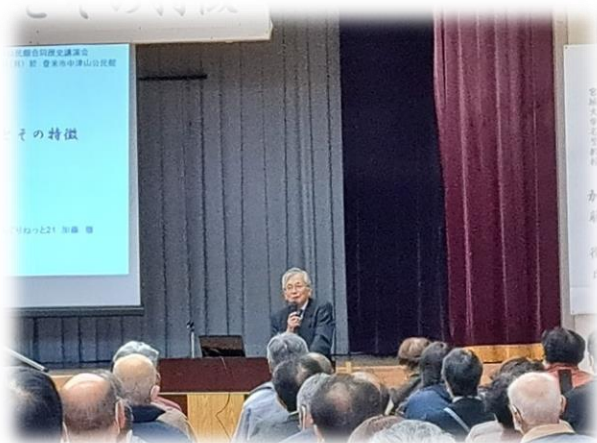
講演会では、大規模ほ場整備「旧迫川地区」内の「短台谷地の開墾」「移住者の御子孫インタビュー」「現在の短台開墾地」等の映像が上映された後、加藤徹先生より「登米耕土の生立ちとその特徴」と題し講演があり、地元住民や元県農業農村整備事業従事職員など約170人が聴講しました。

講演では、「藩政時代」「明治末期から昭和初期」「戦後」と、3つの時代に分けて河川改修と土地改良事業について説明がありました。各時代の河川改修と土地改良事業を経て現代の「登米耕土」を確立した要因として、「河川改修による治水の安定化」と「積極的な土地改良事業の実施」、「地元住民（農家）の意欲・努力」を挙げました。講演の終わりには、現在の登米市における作付面積の大きさや収穫量の多さに言及し、現在の大崎耕土・金成耕土・名取耕土に加え、今後は登米耕土も入れて『宮城の四大耕土』と呼んでもらいたいと話していました。

今回、講演を拝聴し農業農村整備事業に携わる者として、先人たちの苦勞が今の肥沃に富んだ広大な「登米耕土」として発展したことを感じ、今後、事業を実施するうえで参考となる、過去の地形的な条件などを知り得る大変貴重な機会となりました。



▲映像「短台谷地の開墾」上映中



▲加藤徹先生による講演の様子



▲講演会で配付された冊子

### ○パネル展示の実施について

また、登米地域事務所農業農村整備部では、会場の出入り口部分に農業農村整備事業に関するパネルの展示を行いました。展示内容としては、現在工事が実施されている「沼崎・大平地区」、今後工事が実施される「古宿地区」や「米川地区」、近年頻発する豪雨災害に備えた流域治水としての田んぼダムの目的や効果などをまとめた内容を展示し、参加された皆様に農業農村整備事業への理解を深めていただきました。併せて、ため池や用水路での水難事故が絶えないことから啓発用ポスターの展示も行い、水難事故防止を呼びかけました。



▲パネル展示の様子（1）



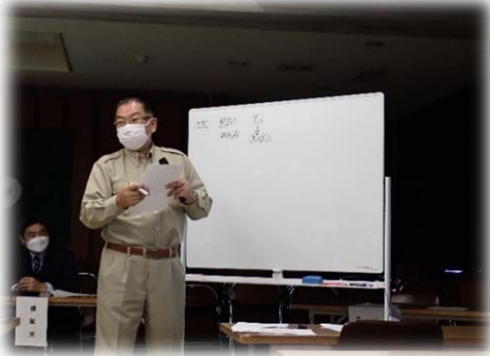
▲パネル展示の様子（2）

## ■「特定家畜伝染病の防疫研修」を開催しました

11月15日に特定家畜伝染病の埋設に関する防疫研修を県建設業協会登米支部と合同で開催しました。

研修会には県職員や建設業協会職員など約100人が出席し、埋却の対応等について座学研修を行いました。講師として、大河原地方振興事務所農業農村整備部の佐々木総括次長、宮城建設業協会仙南支部の廣谷支部長から、昨年度大河原管内で発生した豚熱の埋却対応の経験談や今後整理・検討すべき課題などをわかりやすく詳細に説明していただきました。

今年度も県内では気仙沼地域で高病原性鳥インフルエンザの埋却対応が行われ、当管内でも緊張感が高まっていることから、発生時には円滑な防疫処置が行えるよう関係機関との準備を進めております。



◀宮建協仙南支部  
廣谷支部長

研修会の様子▶



## ■「内ノ目地区におけるレンコン収穫」を行いました

11月21日に登米市東和町錦織地内の内ノ目地区でレンコン収穫作業を行いました。今回収穫したレンコンは、農地整備事業新規採択要望地区である「内ノ目地区」において、高収益作物の選定に当たり試験的に地元関係者が作付けしたものです。収穫作業には、内ノ目地区農地整備事業推進委員長をはじめ、登米市東和町土地改良区理事長及び職員、登米農業改良普及センター、東部地方振興事務所農業農村整備部及び登米地域事務所農業農村整備部職員の約10名が参加しました。

当日はあいにくの雨でしたが、これまでの収穫よりも大きなレンコンがたくさん収穫でき、11月23日開催の「にしきおり青空市」で初めて販売し、すべて完売したとのことです。



▲レンコン収穫の様子



▲にしきおり青空市でのレンコン販売の様子

宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所農業農村整備部 広報広聴委員会（編集管理調整班）

～復興へ 頑張ろう！みやぎ～



〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5

Tel : 0220-22-5169 Fax : 0220-22-6015

E-mail : [et-tmnbnkt@pref.miyagi.lg.jp](mailto:et-tmnbnkt@pref.miyagi.lg.jp)

URL : <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-ns/>

こちらからも  
アクセス出来ます!!

